



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年8月第4週号

第2280回



平成22年8月27日(金) 点鐘12:30 (晴れ)

- ◆ロータリーソング 『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

- ◆お客様紹介
千葉西RC/内貴 洲平様

会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

- ・8/21、「地区クラブ奉仕委員会」(10:00～14:30)がホテルポートプラザであり、鈴木クラブ奉仕委員長と瀬谷雑誌会報・広報委員長と私とで出席してまいりました。
- ・8/28、「地区米山記念奨学委員会セミナー」(14:00～16:30)がペリエホールであり、竹尾国際奉仕委員長、斎藤昌雄カウンセラーと私が出席して参ります。
- ・8/29、「地区WCS交流セミナー」(12:00～15:30)が浦安ブライhtonホテルでありますので出席してまいります。
- ・9月17日のガバナー公式訪問と9月24日のロータリー情報研究会、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

幹事報告 小林 透幹事

・8/20 第3分区B合同幹事会報告

- ① 9月24日(金)の「ロータリー情報研究会」は全クラブ全員登録となりました。当クラブがホストとなっておりますので、皆様のご協力、宜しくお願い致します。
- ② 2月15日(金)に開催される「インターシティミーティング」は、順番ですと千葉港RCがホストクラブですが、今年度からガバナー補佐が出ているクラブがホストクラブになるということになりました。従って今年は千

葉南クラブが担当することになりました。

但し、今年度は第3分区AB合同で開催することになっており、千葉幕張RCが中心となって「アパホテル&リゾート東京ベイ」で行われます。

- ③ 第3分区B合同ゴルフ大会は、10月20日(水)に決まりました。こちらも千葉南RCがホストになっておりますので、皆様のご協力、宜しくお願い致します。詳細は、後日お知らせ致します。

ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

瀬谷さん、本日の卓話、宜しくお願い致します。残念ながら、仕事の都合で折角の卓話をお聞きすることが出来なくなってしまいました。申し訳ございません。

☆瀬谷 研一会員

本日、卓話をつとめさせていただきます。拙いお話ですが、一生懸命やらさせていただきますので宜しくお願い致します。内容は・・・“ナイン”です。

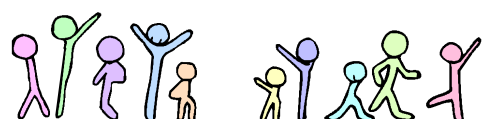
本日のニコニコボックス	3,000円	累計	226,000円
金の箱	780円	累計	6,465円

出席報告 (会員数40名)

出席者数 29	欠席者数 11	ビジター 1	修正出席率次回にて
---------	---------	--------	-----------

千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#)にご利用下さい

千葉RC	月	9/27	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	9/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	9/7・28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマール
千葉北RC	水	—	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	9/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	9/16	京成ホテルミラマール



★ 本日の卓話 ★

演題…『ホテルマンのナイショ話』Part II
卓話者… 瀬谷 研一会員

皆さん、こんにちは。5月にも今日と同じ演題、「ホテルマンのナイショ話」でお話をさせていただきましたが、その時「この続きはまた明晩、ではなく、またいつの日か」とアラビアンナイトを気取って卓話を閉じたのですが、その「いつの日か」が意外と早くやって来ました。またお話しさせていただく機会を頂戴し、本当に有難うございます。前回も申し上げましたが、ホテル屋という生業、ホテルマンという職業、ホテル業というビジネスを、皆さんにより良いイメージでご理解いただければたいへんうれしく思います。

さて、今日は何をお話ししようかと卓話のご依頼をいただいてから考えてまいりましたが、この前、「ホテルはお客様に非日常もご提供する」と申し上げたことを思い出し、その「非日常」、それもお客様にとってではなく私たちホテルマンにとって「非日常」の出来事をご披露してみようかと思えます。

それでは早速本題に入りますが、今日の主人公は皇室の方々です。ホテルマンにとっての「非日常」と申し上げたのは、例えばホテルオークラ東京では日々お迎えするお客様の中に必ずどなたか政界や芸能界の方などの、所謂「有名人」がいらっしゃいますが、皇族の方となると毎日ご来館されるわけではないからです。

皇族のご来館は「お成り」と申しますが、そのお成りにあたって必ず事前にそれなりの準備を整えて当日を迎えます。それもホテル社内の調整だけではなく、宮内庁、皇宮警察、所轄警察署、警視庁あるいは県警本部などと、ホテル館内・周辺のチェックを含む入念な打合せが行われますので、かなりの時間と労力を費やします。一例を申し上げますと、ホテル館内のわずか45cm四方の点検口すべてにお成りの4～5日前から封印のテープが貼られるのですが、いちいちそれに立合います。特に、天皇・皇后両陛下と皇太子・皇太子妃両殿下のお成りの際は、すべてが別格でホテルにとって一大事業となりプロジェクトチーム(受入れ事務局)が組織されます。余談ですが、天皇陛下の外出のことを「行幸(ぎょうこう)」、皇后陛下、皇太子殿下、皇太子妃殿下のそれを「行啓(ぎょうけい)」と特に他の皇族の方々と区別しているところからも、極めて「非日常」的なこととご想像いただけるでしょう。

本日は、私が浜松に勤務していた頃、国体で皇太子・

皇太子妃両殿下をお迎えした時のエピソードを中心にお話しようと思っています。当時は総支配人ではなく副総支配人でしたので、直接ご先導してご案内する役目などはなく、結構お気楽に「観察」させていただきました。

まず、両殿下のお成りのスケジュールは当日まで社外秘の情報としてかん口令が敷かれるのですが、どこをどう嗅ぎつけるのかご到着時間が近づくに沿道には一目見ようと、どこからともなく一般市民が鈴なりに集まり、しかも皆さんが日章旗を手に待ち構えます。いつ誰が情報を流すのか、そして首尾よく手にしている日の丸の旗は誰が用意するのかナゾです。準備段階からの厳戒態勢を思うと、これは実に対照的な光景に写ります。

さて、ご到着(「御着くおんちゃく>」といいます。ご出発は「御発くおんはつ>」です。)にあたり総支配人はホテル玄関にて直立不動でお迎えし、最敬礼でご挨拶と自己紹介をした後、両殿下を先導しご宿泊のお部屋までご案内します。一方、ホテルロビーでは出来るだけ多くの従業員が整列し黙して全員最敬礼、ではなく会釈でお迎えする中、同じように両殿下も私たちと視線を合わせて会釈をなさりながら、前をお通りになってエレベーターに向かわれます。その間、ロビーにおいての一般のお客様には一切の動きをご遠慮いただくので、まさに「時が止まる」一瞬となります。御発の時も同様に多くの従業員でお見送りしますが、必ずホテルの料理長が最前列に立ちます。そして、料理長に向かって必ず「有難う。美味しかったです。」と仰せられるのが常ですが、加えて「〇〇がとても美味しかったです。」などとおっしゃっていただくと、特にお出ししたお料理のご評価がすこぶる良かった証となります。この時も、この後述べますが、「しらす入りの炒飯」をお褒めいただきました。



お料理や飲み物の話題を申し上げますと、この時の両殿下はお泊りになるインベリアルスイート(通常料金231,000円也!!)のダイニングルームで中国料理をご夫妻水入らずでお召し上がりになりました。通常の例では、予めお飲み物も含めてその皇族の方のご嗜好やお好みでないもの、アレルギーの有無などをホテルオークラ東京のデータを取り寄せチェックし料理長がメニューを組立てます。そして、宮内庁経由で事前に和洋中それぞれのメニューをご提案するのですが、午餐会や晚餐会などの会食は別として、実際にお選びになるのはご自身だそうです。メニューには必ずその土地の食材を何品か取り入れます。遠州牛、うなぎ、しらす、メロンなどを取入れた中国料理のコースだったと記憶していますが、殊のほか「しらす入りの炒飯」がお気に召したようで、皇太子殿下自ら「もう少しいただけますか?」とおっしゃり、お代りをなさいました。これは、たいへん稀なことであつたようです。

お召し上がりものについて他の皇族の方のエピソード

文章：荒井 健一(All About「地震・自然災害・火事対策」旧ガイド)

防災の日は、避難訓練などの災害時を想定した訓練をおこなう日として知られていますが、『防災の日』として、9月1日が選ばれた理由をご存じでしょうか？ 当然、知っているという方も大勢いるでしょう。そう、一番の選定事由は『関東大地震』です。

1年に1度しかない『防災の日』。防災意識の再認識を促す機会はないのでは？『関東大地震』を忘れない為に制定された、この日。どのような震災だったのかを知り、来たるべき大地震に備えておきましょう。

大正12(1923)年9月1日11時58分44秒、伊豆大島付近、相模湾北西部の相模トラフ(北緯35.1度 東経139.5度)を震源とする海溝型大地震『関東大地震』が発生しました。この地震はマグニチュード7.9、震度6の規模で、南関東一円を中心に、死者・不明者14万2,807名、家屋全半壊25万4千件余、焼失した家屋は44万7千余、山岳部では山崩れが多数発生し、海岸部では津波が発生しました。東京消防庁による東京(当時は東京府)の被害状況は、焼失した家屋は22万1,718棟、焼損面積38.30平方キロメートル(東京ドームの約1,400倍の広さ)、死者6万420人、行方不明3万6,634人、傷者3万1,051人でした。関東大地震は、その被害の大きさから『関東大震災』とも呼ばれています。

この日にはもう一つ、防災に関する由来があります。それは「二百十日」という厄日です。古来わが国では、二百十日は暦の上で雑節の一つとして、江戸時代初期の1656年(明暦二年)に、伊勢暦で初めて使用され、貞享改暦(1684年)の際、幕府天文方に就任した渋川春海によって、初夏を知らせる八十八夜とともに、暦に記載されました。この雑節は、立春から数えて210日目の日、太陽暦では9月1日頃が、220日目の二百二十日とともに、台風が来襲する厄日とされています。関東大震災時にも、折からの突風が吹き荒れており、東京は3日間にわたって燃え広がり、出火規模は130カ所以上にのぼったのです。もともとは、稲の穂が出始める時期の、農事の上で大切な時期に台風が来襲し、田んぼが泥水につかったり、強風で稲の花が吹き飛ばされてしまいせっかく丹精に作ったお米が実らなくなってしまう為、凶作に見舞われる『厄日』とされていました。この日は日本の文豪達の執筆活動や、私生活にも影響を与え、作品にまでなっています。

をご披露しましょう。高円宮妃殿下が当ホテルにお成りの時、午餐会のデザートにオークラ千葉ホテル特製の「落花生プリン」をお出ししました。これが妃殿下に大好評で、「と〜っても美味しかったわ。コンビニで3つ1パックにして売っていただきたいくらい。」とお控室(これを「ご休所<ごきゅうしょ>」といいます。)へ向かわれるエレベーターの中で、冗談付きのお褒めの言葉を賜りました。また、昭和天皇はお酒もたばこも嗜まれない方だったようですが、これは例外のようで皇室の方々には実にお酒が強い。酒豪ぞろいです。特に強いのが常陸宮殿下で、殿下を横綱とすれば、大関は皇太子殿下と「ヒゲの殿下」でおなじみの三笠宮家の寛仁親王殿下でしょう。いくらお召上がりになってもケロっとして寸分も乱れることがないそうです。もっとも寛仁親王殿下はアルコール依存症になってしまわれましたが…。一般的に、皇室の方々にはアルコールにお強いというのが定説です。



ここで、オーラの話しましょう。私は今までに皇后陛下(美智子様)、皇太子・皇太子妃両殿下、秋篠宮両殿下、常陸宮妃殿下、そして高円宮妃殿下をお迎えしましたが、皇后陛下と皇太子殿下の発するオーラが格別強く印象に残っています。言葉でも文字でも表現し得ない優しさに包みこまれるような気持ちになるのです。「ああ、これが最高の帝王学の真髄なんだらう。」と納得せざるを得ません。きっと、天皇陛下のそれはもっともっと表現出来ない強烈なものなのだろうと思います。毎年春と秋に開かれる天皇陛下主催の園遊会にご招待された方の多くも、恐らく同じように感じられたことと思います。また、こんな逸話もあります。戦後、昭和天皇の全国行幸に同行した進駐軍の高官をして、昭和天皇のお姿を見て国民がたいへんな敬愛の念を体現する様を目の当たりにし、「こんなにあがめ奉られる『スター』を聞いたことも見たこともない。」といわしめたということです。何しろ、本当にとても幸せな、心安らぐ気持ちになります。

前回お話したことも含め、私はこれまでホテルに勤めてきたから、それもオークラで勤務を続けてきたからこそ、人様の知らないことや体験出来ないことを数えきれないほど体験してきたと思っています。それによっていろいろな心の抽斗を持つことが出来、そして心豊かに毎日を過ごしているような気がしています。入社30年経った今でも、よく小学生が「学校に行くのが楽しい。」と思うのと同様に、幼稚なくらい「会社(ホテル)に行くのが楽しい。」と感じる毎日です。これはナイショ話ではなく、声を大にして「わがホテルオークラに感謝!!」、そして「わがホテル人生に悔いなし!!」と申し上げることが出来ます。

今日のお話は、前回に比べあまり笑いを取れるところもナイショにするべきものも少なかったかも知れませんが、この辺で「ホテルマンのナイショ話 Part II」を終わらせていただきます。また、この続きは明日の晩、ならぬいつの日か例会で…。

ご清聴、有難うございました。(文 瀬谷 研一会員)

第2281回例会

日時⇒ 平成22年9月3日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『異常気象』

卓話者⇒ 山口 浩会員

第2282回例会

日時⇒ 平成22年9月10日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『障害のある子どもみんなと一緒に

—私達の活動から見える教育最新事情—』

卓話者⇒ 千葉市地域で生きる会

代表 高村 リュウ様

